

腎臓内科

1. スタッフ

科長（兼）教授 猪阪 善隆

その他、教授 1 名、准教授 1 名、講師 3 名、助教 7 名、
医員 10 名

（兼任を含む。また、准教授、助教は特任、寄附講座を含む。）

2. 診療内容

腎臓は身体の水・電解質の恒常性を維持するとともに、エリスロポエチン・レニン産生、ビタミンD活性化などのホルモン産生、調節にもかかわる。外来及び入院では、主に以下のような疾患を対象とした診療を行っている。

- ・原因不明の蛋白尿や血尿、健康診断で発見される検尿異常の精査
- ・急性・慢性糸球体腎炎（IgA 腎症など）
- ・急性・慢性間質性腎炎（薬剤性腎障害など）
- ・ネフローゼ症候群
- ・急性腎障害
- ・慢性腎臓病（保存期の治療と透析療法への導入）
- ・透析患者の合併症精査や管理
- ・遺伝性腎疾患（多発性嚢胞腎・ファブリー病など）
- ・膠原病（全身性エリテマトーデスや関節リウマチなど）及び各種自己免疫疾患（ANCA 関連腎炎などの血管炎を含む）に伴う腎疾患
- ・糖尿病など代謝性疾患に伴う腎疾患
- ・多発性骨髄腫など血液疾患に伴う腎疾患
- ・各種の血清電解質（ナトリウム・カリウム・カルシウム・リン・マグネシウム）濃度の異常
- ・酸塩基平衡の異常（尿細管性アシドーシスなど）
- ・各種の浮腫性疾患（特発性浮腫を含む）
- ・水分調節の異常（尿崩症など）
- ・尿酸代謝異常（先天性尿酸代謝異常を含む）
- ・本態性高血圧及び二次性高血圧（腎血管性高血圧や原発性アルドステロン症など）とそれに伴う腎障害
- ・妊娠に伴う腎障害
- ・腎臓移植予定患者の移植準備及び移植後の管理

3. 診療体制

(1) 外来診察スケジュール

	月	火	水	木	金
午前	初診	初診	初診	初診	初診
	再診	再診	再診	再診	再診
	再診	再診	再診	再診	再診
午後	再診	再診	再診	再診	再診
	再診		再診		再診

上記の通常外来のほか、火、木曜日は腹膜透析専門外来が

ある。また火、木曜日を中心に療法選択外来（保存期腎不全患者に血液透析、腹膜透析、腎移植について詳しく説明する外来）を行っている。

(2) 病棟スケジュール

	月	火	水	木	金
午前			腎生検		
午後		科長回診 腎生検カンファレンス	新入院カンファレンス	スタッフカルテ回診 血液浄化部カンファレンス	

東 3 階病棟において 1 年目及び 2 年目の初期研修医が当科で研修している。当科としての病床数は 18 床である（令和 2 年 4 月時点）。責任指導医 1 名、指導医 1 名、スタッフ医師 3 名の体制を基本としている。

(3) 血液浄化療法

当科及び血液浄化部スタッフにより、血液浄化部及び病棟において、各種の血液浄化療法を行っている。従来、通院の維持血液透析は行っていなかったが、昨年から腹膜透析との併用患者に対してのみ通院透析を行っている。主に、慢性腎不全患者の血液透析・腹膜透析導入、維持透析症例の外科処置等に伴う入院中の血液透析・腹膜透析、院内発生の急性腎障害への緊急透析などを行っている。それ以外にも、自己免疫疾患や免疫性神経疾患に対するアフエレーシス、肝不全に対する血漿交換療法、血液型不適合例における腎移植前の血漿交換療法、炎症性腸疾患における白血球除去療法などを必要に応じて施行している。

4. 診療実績

(1) 外来診療実績

当科の外来診療は、内科西外来にある診察室で行っており、平成 18 年度に 1 ブースから 2 ブースへ、平成 30 年度に 3 ブースへ拡大した。診療対象疾患としては、急性糸球体腎炎、慢性糸球体腎炎、糖尿病性腎症、急性腎障害、慢性腎不全、膠原病・自己免疫疾患などである。IgA 腎症に対する扁桃摘出・ステロイドパルス療法の導入、先進医療の積極的導入（多発性嚢胞腎に対するトルパブタン投与、難治性ネフローゼに対するリツキシマブ投与など）を推進している。令和元年度外来患者数は延べ 15044 名で一日平均患者数は 59 名であった。

(2) 入院診療実績

令和元年度当科病棟への新入院患者数は 348 名、延入院患者数は 6126 名であった。当科の業務として、他

の診療科へのサポートは大きなウエイトを占める。共観患者数は389名で、その診療科別内訳を表1に示す。

(3) 腎生検実績

腎生検は腎疾患の治療方針決定の上で大きなウエイトを占める。令和元年度の腎生検患者の組織診断名と人数を表2に示す。

(4) 治験実績

各種腎疾患治療の臨床研究が進行中である（一部のみ）。

- ・成人期発症のネフローゼ症候群（頻回再発型あるいはステロイド依存性）患者に対する IDEC-C2B8 の有効性及び安全性を確認する臨床第Ⅲ相試験
- ・常染色体優性多発性嚢胞腎患者を対象としたバルドキシロンメチルの有効性及び安全性を検討する第Ⅲ相臨床試験
- ・RTA 402 第Ⅲ相臨床試験（糖尿病性腎臓病患者を対象としたプラセボ対照ランダム化二重盲検比較試験）

(5) 教育普及活動

学会活動、講演会などを通じて地域診療の中で CKD についての教育普及活動を積極的に行っている。具体的には、慢性腎臓病患者に対する市民公開講座や啓発活動を行うとともに、新規治療薬が保険適用になった多発性嚢胞腎に関する患者勉強会を積極的に行うなど患者教育に力を入れている。また地域の医療関係者を対象とした勉強会（慢性腎臓病地域連携勉強会）も定期的に開催している。

5. その他

本院は日本腎臓学会教育認定施設、日本透析医学会認定教育施設であり、当科は内科認定医 28 名、内科総合専門医 17 名、腎臓専門医 20 名、腎臓指導医 3 名、透析専門医 14 名、透析指導医 3 名、腎移植認定医 2 名を擁する。

倫理委員会申請による主な臨床研究のテーマは以下のとおりである（一部のみ）。

- ・当科における腹膜透析関連感染症の解析～予後改善を目指して～
- ・ヒト血液・尿を用いた腎臓病患者の病態解析や予後予測因子の同定
- ・SGLT2 阻害薬投与に伴う血圧、体重、各種血液パラメーターの変化と長期予後に関する研究
- ・保存期慢性腎臓病患者の酸塩基平衡異常と腎予後の関連
- ・心不全患者における腎機能の変動と患者予後についての検討

表1 令和元年度院内共観（症例数）

泌尿器科	90
心臓血管外科	68
循環器内科	38
消化器内科	29
消化器外科	23
神経内科・脳卒中科	22
免疫内科	17
眼科	15
耳鼻咽喉科・頭頸部外科	13
高度救命救急センター	11
血液腫瘍内科	10
皮膚科	9
糖尿病・内分泌・代謝内科	6
整形外科	6
産婦人科	6
呼吸器外科	5
脳神経外科	5
呼吸器内科	4
小児科	3
小児外科	2
放射線科	2
形成外科	2
老年・総合内科	1
精神科	1
合計	389

表2 令和元年度腎生検患者（症例数）

IgA 腎症	16
膜性腎症	8
IgA 血管炎	6
微小変化型ネフローゼ症候群	6
慢性尿細管間質性腎炎	4
急性間質性腎炎	3
微小糸球体病変	3
良性腎硬化症	3
ループス腎炎	2
巣状分節性糸球体硬化症	2
ANCA 関連腎炎	1
Fibrillary 腎症	1
Thrombotic microangiopathy (TMA)	1
メサングウム増殖性糸球体腎炎(非 IgA 腎症)	1
腎硬化症	1
半月体形成性糸球体腎炎	1
膜性増殖性糸球体腎炎	1
菲薄基底膜症候群	1
合計	61